

平成26年度

沼津市教育委員会  
事務点検・評価報告書

沼津市教育委員会

(参考) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

はじめに

沼津市教育委員会では、平成21年1月に生涯学習の視点から教育施策を総合的に展開していくための指針となる「沼津市教育基本構想」を策定し、「明日の社会を担う『夢ある人』づくり」を目的として定めました。

この基本構想に示された理念の具現化を図るため、平成21年に「沼津市教育基本構想実施計画」を作成、さらに、平成23年には新たに「沼津市教育基本構想実施計画（H23～H27）」としてこれを更新し、それまで取り組んでいた隣接校選択制や言語教育推進事業などもあわせて、具体的な施策を着実に実施してまいりました。

また、近年の教育を取り巻く社会的な環境変化に応じるため、教育における課題や施策の検証を行うとともに、必要に応じて内容を見直した「沼津市教育基本構想（改訂版）」を平成27年3月に策定いたしました。

このたび、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、平成26年度の沼津市教育委員会の事務について点検・評価を行いましたので報告いたします。

平成27年8月

沼津市教育委員会委員長 久松 但

## 目 次

第1章 点検・評価の概要	1
1 趣旨	1
2 点検・評価の対象	1
3 点検・評価の方法	1
4 点検・評価の構成	2
第2章 沼津市教育委員会自己点検・評価の結果	3
1 教育委員会の活動	4
2 教育委員会が管理・執行する事務	5
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	6
第3章 沼津市教育委員会事務評価委員会の意見	11
1 教育委員会の活動について	11
2 教育委員会が管理・執行する事務について	11
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務について	12
4 全体を通じた意見	13
第4章 総合評価	15

## 第1章 点検・評価の概要

### 1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされました。

そこで、沼津市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たしていくために、教育委員会の権限に属する事務について点検・評価を行っています。

### 2 点検・評価の対象

点検・評価は、毎年、教育委員会の権限に属する事務を対象として行うものであり、本年度は、平成26年度の教育委員会の事務について点検・評価を行いました。

### 3 点検・評価の方法

(1) 点検・評価の実施に当たっては、平成26年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を明らかにするとともに、課題等を分析するべく内部評価を行いました。

(2) 法第26条の規定に基づき、「沼津市教育委員会事務評価委員会」を設置し、学識経験者の知見の活用を図りました。

沼津市教育委員会事務評価委員会の委員は、次のとおりです。

沼津市教育委員会事務評価委員会委員

(敬称略)

氏名	役職等
角 替 弘 志	常葉学園大学 前学長
渡 邊 妙 子	財団法人佐野美術館 館長
落 合 寿 雄	沼津市教育関係団体 前事務局長

#### 4 点検・評価の構成

点検・評価については、「沼津市教育委員会自己点検・評価の結果」と「沼津市教育委員会事務評価委員会の意見」及び「総合評価」により構成しています。

「沼津市教育委員会自己点検・評価の結果」は、「自己点検・評価シート」により次のように評価しています。

##### (1) 自己点検・評価シートの構成

自己点検・評価シートは、教育委員会の事務を「教育委員会の活動」、「教育委員会が管理・執行する事務」、「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」の三つの大項目に分類し構成しています。

##### ア 教育委員会の活動

教育委員会の会議の運営改善や公開、保護者や地域住民への情報発信の状況など、教育委員会自らの活動状況について6つの中項目に区分し、さらに9つの小項目に細分化して、点検・評価を行いました。

##### イ 教育委員会が管理・執行する事務

教育委員会が管理・執行する事務は、教育委員会の権限に属する事務のうち、教育長に委任するものを除く教育委員会が自ら管理・執行する事務について8つの中項目に区分して、点検・評価を行いました。

##### ウ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

教育委員会から教育長に委任された事務について、「沼津市教育基本構想」に基づき、家庭教育、幼児教育、学校教育、社会教育の四つの中項目に区分し、さらに各中項目において柱となる施策を14の小項目に細分化して、点検・評価を行いました。

##### (2) 各項目の点検・評価について

自己点検・評価シートの項目ごと「平成26年度事業内容に対する達成度」（左枠）について、目標、内容、成果と課題等から総合的に判断してABCの三段階評価を、「事業全体」（右枠）について、継続・完了か、改善・見直しが必要なのかを明記することとしました。

## 第2章 沼津市教育委員会自己点検・評価の結果

沼津市教育委員会  
自己点検・評価シート

沼津市教育委員会

# 沼津市教育委員会

## 自己点検・評価シート

大項目1 評価

A	改善
---	----

評価基準(事業内容に対する達成度)

左枠 A ... 達成又はほぼ達成している

B ... 概ね達成している

C ... 遅れている

右枠 継続 ... 現状の内容のまま継続していく事業

改善 ... 改善しながら継続していく事業

見直し... 抜本的見直しが必要な事業

完了 ... 目的を達成し完了した事業

表記方法

該当する記号・文言を記入

大項目	中項目	小項目	点検・評価 (○...成果 ☆...改善点・課題)		
1 教育委員会の活動	(1)教育委員会の会議の運営改善	①教育委員会の会議の開催	A	継続	○ 定例会を月1回開催すると共に、必要に応じて協議会や臨時会を開催した。いじめや学力に関する議論等を活発に行った。また、人事等に係る議案については臨時会を開催した。
		②教育委員会の会議の運営上の工夫	A	継続	○ 学校、教育委員会・市所管施設で教育委員会を開催した。 ○ 事前に協議会を開催し、効率的な審議を図るように努めた。
	(2)教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	①教育委員会の会議及び議事録の公開	A	継続	○ 人事案件などの非公開とされた会議を除き、会議を公開した。 ○ ホームページに、定例会の開催日程・場所などを掲載した。 ○ ホームページに、公開とされた会議の議事録要旨を掲載した。
		②教育委員会の広報・広聴活動の状況	A	継続	○ 教育委員会のホームページにおいて、教育基本構想改訂版のパブリックコメントを求めるなど、効果的な情報発信に努めた。 ○ 「沼津の教育」を作成し、予算の執行状況や児童生徒数、前年度に教育施設を利用した人数の統計や、新規事業等を記載するなど情報を発信した。 ☆ 総合教育会議をはじめ、今後も情報発信に努める。
	(3)教育委員会と事務局との連携	①教育委員会と事務局との連携	A	継続	○ 事務局から教育委員に対し、必要に応じて電話やFAX、文書等で報告するなど、緊密な連携を図った。 ○ 早めの資料配布を心がけ、効率的な審議を図るように努めた。
	(4)教育委員会と首長の連携	①教育委員会と首長との連携	B	改善	○ 教育施策について、市長部局との調整を行い、必要に応じて教育長から市長へ報告を行った。 ○ 12月に市長と教育委員との意見交換を行った。 ☆ H27以降は総合教育会議で協議・調整を図り、より一層の連携を深める予定である。
	(5)教育委員の自己研鑽	①研修会への参加	A	継続	○ 市町が合同で行う教育委員の研修会に参加した。 ○ 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律改正について」などのテーマをはじめ、13のテーマで教育委員の勉強会を行い、教育問題への知識を深めた。
	(6)学校及び教育施設に対する支援・条件整備	①学校訪問	B	改善	○ 静浦小中一貫学校、四小、二中等の視察をはじめ、教育現場の理解に努めた。 ☆ より多くの学校(小中学校・幼稚園・認定子ども園・市立高校等)の視察を行う。
		②所管施設の訪問	A	継続	○ 様々な所管施設を訪問して定例会を実施した。 (市民文化センター、少年自然の家、明治史料館等)

# 沼津市教育委員会

## 自己点検・評価シート

大項目2 評価

A	継続
---	----

評価基準(事業内容に対する達成度)

- 左枠 A ... 達成又はほぼ達成している  
 B ... 概ね達成している  
 C ... 遅れている

- 右枠 継続 ... 現状の内容のまま継続していく事業  
 改善 ... 改善しながら継続していく事業  
 見直し... 抜本的見直しが必要な事業  
 完了 ... 目的を達成し完了した事業

表記方法

該当する記号・文言を記入

大項目	中項目	点検・評価 (○・・・成果 ☆・・・改善点・課題)		
2 教育委員会が管理・執行する事務	(1) 学校教育及び社会教育に関する一般方針を定めること	A	継続	○ 平成27年3月に「沼津市教育基本構想 改訂版」を策定した。有識者を交えた改訂会議を7回実施し、今後の沼津市の教育の方向性を明確にした。
	(2) 県費負担教職員の懲戒及び県費負担教育職員たる校長の任免その他の進退について内申すること	A	継続	○ 県費負担教職員について県教育委員会に内申するなど、適切に対処した。
	(3) 人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと	A	継続	○ 人事異動の方針について市長部局と連携し、決定した。
	(4) 県費負担教職員以外の校長、教頭、事務長、図書館長、少年自然の家所長、体育館長の任免を行うこと	A	継続	○ 人事異動については、十分な協議をし、決定及び任命した。
	(5) 教育長、教育次長、課長及び室長の任免を行うこと	A	継続	○ 人事異動については、十分な協議をし、決定及び任命した。
	(6) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃を行うこと	A	継続	○ 「沼津市立小中学校の通学区域を定める規則」「沼津市小中学校の就学校の指定に係わる学校選択制度」「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律案」に基づいた総合教育会議の設置や大綱の策定についてなど、教育委員会規則の一部改正を行った。
	(7) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること	A	継続	○ 平成26年度補正予算、平成27年度予算及び「沼津市いじめ防止等のための基本的な方針」の策定など、市議会の議決を経るべき議案について協議した。
	(8) 社会教育委員を委嘱すること	A	継続	○ 昨年度に引き続き社会教育委員を委嘱した。

# 沼津市教育委員会 自己点検・評価シート

大項目3 評価

A	継続
---	----

評価基準(事業内容に対する達成度)

左枠 A ... 達成又はほぼ達成している  
 B ... 概ね達成している  
 C ... 遅れている

右枠 継続 ... 現状の内容のまま継続していく事業  
 改善 ... 改善しながら継続していく事業  
 見直し... 抜本的見直しが必要な事業  
 完了 ... 目的を達成し完了した事業

表記方法

大項目	中項目	小項目	点検・評価 (○・・・成果 ☆・・・改善点・課題)		内容
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(1) 家庭教育	① 家庭教育を充実させる	B	改善	<p>○講座会場に託児室を設け、子育て世代の市民が受講しやすい環境づくりに努めた。より多くの市民が学べるような機会を提供したことで、前年度より受講生が増加した。</p> <p>☆さらに多くの市民に受講してもらうためのニーズ調査、若い保護者の助けとなるような内容等、参加しやすい環境づくりをする必要がある。</p> <p>☆今後は、少子化対策と絡めた新規事業を検討する。</p>
		② 家庭教育を支援する	A	継続	<p>○沼津市PTA連絡協議会の活動を支援することで、市の事業との連携が強化され児童生徒の健全な育成を図ることができた。</p> <p>☆連携事業について、今後も連絡を密にする。</p>
	(2) 幼児教育	① 幼児教育を充実させる	A	継続	<p>○「私立幼稚園支援事業費補助金」を助成し、幼児教育の更なる充実を図った。</p> <p>○就園奨励費の助成により、私立幼稚園に在園する保護者の経済的負担を軽減した。</p> <p>○教材教具の整備・充実、施設維持管理の経費をまかない、市立幼稚園の運営と維持を図った。</p>
		② 幼児教育をつなぐ	B	継続	<p>○助成により各種研究会等が行われ、幼稚園・保育所(園)の連携と、教諭・保育士の資質向上が図られた。</p> <p>○小学校入学前の早期からの就学相談、就学支援を行うことができた。</p> <p>○幼保小の教員や子どもの連携を図るため、年間の行事予定を交換している。幼保小代表者それぞれの意見に基づき、幼保小連携協議会の開催については昨年度に引き続き休止したが、今後も幼保小の連携を推進する。</p> <p>☆十分な就学指導ができなかったケースがあるので、今後も個別に就学指導をしていく。</p> <p>☆幼保小の連携の仕方について、今後も検討していく。</p>
	(3) 学校教育	① がんばる学校を応援する	A	継続	<p>○各学校が独自の取組を企画・立案する「がんばる学校応援事業」では、小中学校合計で115あまりの事業が企画され、児童生徒にとって有意義な活動が行われた。</p> <p style="padding-left: 20px;">→歴史や環境の学習に活用している例もあり、今後も各学校において創意工夫ある取組ができるように推進していく予定である。</p> <p>○教職員研修センターを積極的に活用する教職員が増加した。研修後のアンケートでは、活用した教職員の満足度が非常に高かった。</p> <p>○教職員研修センター職員の勤務時間拡充により、一層充実した研修が行えるようになった。</p> <p>○学校評議員と学校評価の関係評価者とをリンクさせることにより、開かれた学校運営に向けた組織が確立されつつある。</p> <p>○各チームごとに、研究テーマの実現に向けた積極的な取組が見られ、公開授業や研究冊子で、成果を発信することができた。</p> <p>○情報機器活用による授業づくりの工夫がみられ、ホームページの公開による情報発信も行われている。</p> <p>☆学校の自主自立を図るための「がんばる学校応援事業」の裁量の幅を広げて欲しいという要望が多く寄せられている。</p> <p>☆学校評議員からの助言をどの程度、学校運営に生かしていくかが課題である。</p> <p>☆情報機器の整備、充実を今後も継続すると共に、タブレットPCの研究も進めていく必要がある。</p>

大項目	中項目	小項目	点検・評価 (○…成果 ☆…改善点・課題)		
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(3) 学校教育	②独自の取組を推進する	A	継続	<p>○「沼津市教育基本構想改訂版」を平成27年3月に策定した。</p> <p>○平成26年4月に静浦小中一貫学校が開校した。 (一貫学校では、施設一体型の特長を生かした日常的な異学年交流をしながら、児童生徒が落ち着いた学校生活を送っている。また、図書室を活用する児童生徒が多く、異学年同士の交流が促進されている。)</p> <p>○市立沼津高等学校では、中高合同の学校行事を通じ、中高生の交流が図れた。</p> <p>○市立沼津高等学校では、校長を中高兼務としたことにより、一貫校としての連携が深まった。</p> <p>☆一貫学校一年目としては良いスタートを切れたと考えるが、成果と課題については継続して研究していく必要がある。 →平成27年度以降、新たな小中一貫学校の開設に向けて検討していくことも考えている。</p> <p>☆教育基本構想改訂版を具現化していくために、今後、教育基本構想実施計画を策定する。 →今後、子ども達に、これまで以上に豊かな教育環境、充実した学習機会を提供するためにも、土曜授業の実施について研究していくことを考えている。</p>
		③確かな学力を育成する	A	改善	<p>○沼津市標準学力調査を12月に実施することで、児童生徒の学習内容の定着の傾向が分かり、授業改善に生かすことができた。</p> <p>○「確かな学力育成事業」の放課後学習に参加した児童のアンケートからは、「支援員の方に教わって、よく分かるようになった。」「丁寧に教えてくれてよかった。」など肯定的な意見が多く見られた。</p> <p>○言語科に関するアンケート結果では、保護者、教員の約8割が「児童生徒のコミュニケーション能力が向上したと思う」との評価があった。</p> <p>○図書館の整備が進み、学校司書も3名増員した。</p> <p>○少年自然の家の事業は全体的に好評で、多くの参加者に満足していただいた。</p> <p>☆放課後支援員の増加を望む学校側の要求に応じていく必要がある。</p> <p>☆各校からは、学校司書の巡回時間の増加について要望が上がっている。</p> <p>☆市内各小中学校の理科教育設備の整備を毎年順番に行っているが、今後も推進していく必要がある。</p> <p>☆平成28年度から、「新言語科」へ移行するための見直しが必要である。</p>
		④豊かな心と健やかな体をはぐくむ	A	継続	<p>○全額補助ではないが、県大会以上の参加者にとって遠征費の補助は、部活動推進の助けとなった。</p> <p>○学校給食では、衛生面の大きな問題はなかった。食中毒などの事故発生もなく、安全に給食を実施できた。</p> <p>○地場産物の使用が定着してきて、ふるさと給食週間において地場産物使用率が向上した。</p> <p>☆遠征費の支払い方法並びに金額について、改善の余地がある。</p>

大項目	中項目	小項目	点検・評価 (○…成果 ☆…改善点・課題)		
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(3) 学校教育	⑤一人一人の子どもを大切に作る	A	改善	<p>○児童生徒研究作品展・小中学校美術展は、継続的な取組が見られる研究作品や、授業での学習内容や素材を生かした美術作品が見られ、創作活動に対する興味関心や意識の高揚の場となった。</p> <p>○巡回相談員を派遣することにより、心理の専門家、特別支援の専門家から児童生徒のとらえ方の指導助言を受け、個々の児童生徒への適切なかかわり方や個別支援計画の作成などに役立った。</p> <p>○通級指導教室に支援員を配置することにより、担任一人では気持ちが落ち着かなくなった児童に対し、複数で対応することができた。</p> <p>☆美術展では、文化センターの他の行事と重なってしまい、駐車場が混雑し、国道まで駐車待ちの車が並んでしまった。27年度はブラサヴェルデで研究作品展を実施するなど、駐車場や会場等の課題について検討していく。</p> <p>☆年間2回の巡回相談では継続した関わりができず、回数を増やしてほしいという学校からの声がある。</p> <p>☆いきいき学校生活応援支援員の小学校全校配置により、複雑な家庭環境を持つ児童や、友人関係を上手に作れない児童などが、いきいきと学校生活を送れるようになってきている。しかし、通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒は増加している傾向が見られ、支援員の人数・勤務時間・日数の拡充が必要である。</p> <p>☆学校によっては、年度当初に心の教室相談員が全校生徒と面談し、生徒が相談しやすい環境づくりに努めることで、不登校生徒が減少するなどの成果を上げている。しかし、市内全体で見ると、依然として不登校生徒が多いため、更なる相談員の活用の仕方の工夫や、相談員の増員等により、生徒へきめ細かい対応をこれまで以上に図る必要がある。</p>
		⑥社会の変化に対応する	A	継続	<p>○情報機器活用による授業づくりの工夫がみられ、ホームページの公開による情報発信も行われた。</p> <p>○通学援助事業の対象となる児童生徒に対し、バス通学援助費を支給した。</p> <p>○通学路安全推進アドバイザーから、通学路の危険箇所の安全対策及び児童生徒への安全指導について専門の見地からの助言を受け、対策案を立案したり、児童の安全意識を高めたりすることができた。</p> <p>○小中学校の施設の改修、修繕により、教育環境の整備を進めた。</p> <p>○短期的な改修計画について検討を行った。</p> <p>☆緊急性が高いものから優先的に修繕・工事を行っているが、整備改修項目が多く、未整備箇所が積み残されている。</p> <p>☆市立沼津高等学校の外周塀や弓道場の改修整備が未着手であり、計画的に進めていく必要がある。</p>

大項目	中項目	小項目	点検・評価 (○…成果 ☆…改善点・課題)		
			A	継続	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(4)社会教育	①青少年の社会性をはぐくむ	A	継続	<p>○青少年問題協議会において、青少年に対する有害情報対策をテーマとして事例研究や意見交換を行った。また「地域の子どもは地域で育てる」を全市統一目標とし、「青少年を健やかに育てる会」を中心とした地域主導型の青少年健全育成活動を推進した。</p> <p>○「わたしの主張大会」では、19中学校の代表が日頃考えていることを発表し、1人が県大会に進んだ。</p> <p>○地域における子どもの居場所づくりを支援するため、放課後子ども教室を1校新設し、合計で4校になった。</p> <p>○青少年体験活動では、2市1町の中学生が、5泊6日という長期宿泊体験の中で、「思い出づくり」「自分づくり」「仲間づくり」を達成し、青少年健全育成が図られた。</p> <p>○青少年の不適応行動の未然防止と改善のため、街頭補導や非行・被害防止キャンペーン等を実施した。</p> <p>○沼津市青少年健全育成団体に対し、運営費及び事業費の一部を補助することにより、沼津市の青少年健全育成活動を支援し、健全育成の推進を図った。</p> <p>○世界大会出場者へ賞賜金を交付し、市民意識の高揚を図った。また、体育協会を通じ、各競技団体で全国的に活躍できる選手の育成に対する支援を行った。</p> <p>○「こどもかけこみ110番の家」プレート掲示の更なる推進のため、「こどもかけこみ110番の家推進委員会」を開催し、沼津警察署のほか、PTA連絡協議会、自治会連合会等から意見を伺い、体制の強化を図った。</p> <p>☆放課後子ども教室については、放課後児童クラブと一体的な運営を行うため、所管を移す予定である。</p> <p>☆青少年体験活動では、参加者増加のため、周知方法だけでなく実施時期や期間等も含めた事業の実施方法についても考える必要がある。</p>
		②自主的な学習を支援する	A	継続	<p>○高齢者学級生の学習ニーズに応じた学級運営を行い、高齢者の生きがいづくりに貢献した。</p> <p>○市民大学では、「科学が未来を変える」をテーマに様々な分野から一流の講師による講演を実施し、定員を上回る募集があり受講生が増加した。</p> <p>○生涯学習地域推進員の研修を行い、推進員のスキルアップを図った。</p> <p>○図書館資料の整備にあたっては、郷土資料など資料価値の高いもののほか、利用者のニーズを考慮しながら図書館資料の充実に努めた。</p> <p>○図書館自主事業として、講演会、講座、企画展のほか、子ども読書活動推進に係るイベントを開催するなど、市民への学習機会を提供した。</p> <p>☆著名な講師の招聘と多人数に対応できる会場の確保が課題である。</p> <p>☆限られた図書購入費で図書館資料の整備・拡充が難しい現状がある。</p>

大項目	中項目	小項目	点検・評価 (○…成果 ☆…改善点・課題)		
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(4) 社会教育	③文化を継承し、発信する	A	継続	<p>○沼津市芸術祭の開催等を通じ、市民の文化・芸術の振興を図った。</p> <p>○地域ふれあいコンサートを開催し、募集人員を大幅に超過する回もあり好評であった。</p> <p>○国指定史跡である「興国寺城跡」、重要文化財「松城邸」、国登録文化財「帯笑園」の継続的な調査を行うとともに、保存整備とその活用に努めた。</p> <p>○国指定史跡である「長浜城跡」の整備が完了した。 →沼津市に存在している多数の史跡等は、単に保存するだけでなく、多くの人に愛され、見ていただく事が重要であり、観光資源としても生かされるように今後は具体的な活用方法等について検討していく予定である。</p> <p>○明治史料館開館30周年を記念した特別展を開催し、沼津兵学校に関する調査・研究の成果を公開できた。</p> <p>○芹沢光治良記念館開館以来初となる出前講座等を市民等の依頼により開催した。従来の来館者に加え、新規来館者数も増加した。</p> <p>☆文学のまちづくり推進事業はいったん終了したが、今後の新たな事業の展開を検討していく。</p> <p>☆地域ふれあいコンサートは、平成27年度で市内の中学校区を一巡すること、平成23年度の再開から5年を経過するため、次年度以降、事業継続の可否についての判断が必要。</p>
		④市民みんなのスポーツを展開する	A	改善	<p>○日常生活の改善や健康で生き生きとした生活を送るため、気軽に参加できる各種教室を開催し、市民の健康増進・体力向上に努めた。</p> <p>○市民スポーツの振興と施設の充実を図るとともに、よりよい社会体育を目指すため研修会等に参加した。また、各地区から選出されたスポーツ推進委員による各種スポーツ大会を開催した。</p> <p>○各種スポーツ施設は、安全かつ快適な利用者受入施設として適切な維持管理を行うとともに、利便性向上のための改修、修繕を実施し、市民のみなさんに身近で気軽に利用できるスポーツ、レクリエーションの場として広く市民に施設供用を行った。</p> <p>○世界大会出場者へ賞賜金等を交付し、市民意識の高揚を図った。また、体育協会を通じ、各競技団体全国的に活躍できる選手の育成に対する支援を行った。</p> <p>☆参加希望者の増加や教室のニーズが多様化する傾向にあり各会場で開催している教室の拡充や増設などが検討課題である。</p> <p>☆地域スポーツの担い手として活動しているスポーツ推進委員の、より一層の資質向上が必要である。</p> <p>☆指導法だけでなく、子どもの心情面についての研修も取り入れながらスポーツリーダーを育成し、これまで以上に地域や学校のスポーツ活動の推進に努める必要がある。</p> <p>☆新市民体育館建設事業については、香陵公園周辺整備事業等との整合性を図り、事業を実施していく予定である。</p>

### 第3章 沼津市教育委員会事務評価委員会の意見

#### 1 教育委員会の活動について

##### (1) 教育委員会の会議の開催並びに会議の公開、保護者や地域住民への情報発信について

- 月1回の定例会の他、随時臨時会を開催し、いじめや学力に関することをはじめとした各議案等について活発かつ慎重な協議を重ねていることが評価できる。
- 公開された会議の議事録要旨をホームページに掲載している点、教育基本構想改訂版のパブリックコメントを求めている点など、情報発信に努めていることが評価できる。
- 「沼津の教育」は、沼津の教育の現状を知ってもらうため、市P連正副会長や県内各市町教育委員会へも送付している。今後も、開かれた教育委員会としての情報発信の方法を、さらに充実させる必要がある。

##### (2) 教育委員会と事務局との連携

- 教育委員と事務局は、教育委員会の開催や議案内容に対して、緊密な連携をしていることが分かる。
- 今後も教育委員と教育委員会事務局の連携を密にし、教育行政全般について検討していくことが重要である。

##### (3) 教育委員会と首長との連携

- 市長と教育委員との意見交換の場が持たれたことは評価できる。  
27年度からの総合教育会議において、これまで以上に首長との連携を深め、今後の市としての方向性等についても活発な協議をすることを期待する。

##### (4) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備について

- 26年4月に開校した静浦小中一貫学校の視察をはじめ、市内の小中学校の様子を実際に見に行ったこと、また、様々な所管施設を訪問して現状を確認していることが評価できる。
- 今後も実際の現場を見る機会をこれまで以上に確保し、教育施設に対する支援・条件整備の充実に努める必要がある。

#### 2 教育委員会が管理・執行する事務について

##### (1) 教育委員会が管理・執行する事務全般について

- 教育基本構想改訂版の策定、通学区域を定める規則の改正、総合教育会議の設置や大綱の策定に向けた準備等、関係諸機関と十分協議しながら適切に施行されている。

### 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務について

#### (1) 家庭教育について

- 家庭教育の支援として、子育て世代の市民向けの講座が大変盛況であるということはすばらしいことである。今後は、少子化対策等についても視野に入れた事業を検討していただきたい。
- 今日的な課題として、携帯電話やスマートフォンの使用について家庭でルール作りをしていくことが求められている。生涯学習課、市P連、学校等からも投げかけているが、関係各課との連携を今まで以上に深めながら家庭へ投げかけていただきたい。

#### (2) 幼児教育について

- 子ども子育て支援新制度の下、沼津市内でも私立の認定子ども園が1園できた。幼稚園と保育園は、教育と保育という大きな違いがあるが、より良い幼児教育に向けて、教育委員会と市長部局がこれまで以上に緊密な連携をとることが必要である。
- 小学校入学前の早期からの就学相談、幼保小の連携を図るための年間行事予定の交換等に取り組んでいるが、幼保小の連携は大切であるので今後とも様々な方法で連携を進めていただきたい。

#### (3) 学校教育について

- 沼津市は、中高一貫、小中一貫、言語科のカリキュラムなど先進的な取り組みが多い。子どもの数が減少していくこれからの時代において、沼津市における特長的な取り組みを生かした教育行政を今後も推進していくことが大切であると思われる。
- がんばる学校応援事業では、各学校の創意工夫の見られる企画が立案されている点が評価できる。教育基本構想の具現化、総合的な学習、外部講師の招聘等、それぞれの企画において独創的な施策が多い。今後は、これらに加え、自然体験や沼津の史跡散策等、カリキュラムの枠組みをさらに広げていくと良いと思われる。
- 児童生徒の約9割が「学校が楽しい」と回答している点からも良好な教育環境が整っていると思われる。残りの1割の児童生徒へのきめ細かな対応も心がけてもらいたい。
- 学力保証プログラム事業において、授業の質に高まりが見られるようになってきたこと、中学校での研修が活発になってきたことが評価できる。また、プログラムの一環である放課後学習に参加した児童から「学習内容がよく分かるようになった」などの肯定的な意見が多い点が良い。
- いきいき学校生活応援スタッフ、心の教室相談員、放課後支援員など、市単独で配置していることは素晴らしいことである。学校教育において

は、児童生徒へのきめ細やかな対応をするために必要不可欠な存在である。特に、小学校低学年には様々な課題を持つ児童が多くいるため、必要な人材の確保と人員の充実がこれまで以上に重要であると感じる。

- 市内小中学校のうち、約 7 割の校舎が建築後 30 年を経過している。児童生徒の安全かつ快適な教育環境を確保し、事故の発生を防止するため、今後も計画的な営繕、改修をしていくことが必要であると思われる。

#### (4) 社会教育について

- 部活動の支援員としてスポーツリーダーを活用してもらえるような工夫の必要性は昨年度も話題に上がっている。それに対して、指導者と子どもの考え方の違い、子どもの心の問題等も踏まえた研修をする機会を設けているという工夫が評価できる。今後も学校現場との連携を含めていただきたい。
- 市民の文化環境の充実という視点で、興味を持ちやすい様々な事業を実施していることが評価できる。白隠禅画展を産業振興部と共催という形で実施し、経費を削減できた点も工夫である。

#### 4 全体を通じた意見

- 本年度においては、「沼津市教育基本構想実施計画」に基づき着実に施策、事業を実施するとともに、現状の課題や各分野の施策を検証するなかで、平成 21 年 1 月に策定された「沼津市教育基本構想」自体について、市民各層からの意見を踏まえて内容を見直し、「沼津市教育基本構想（改訂版）」を策定したことは極めて適切であり、今後一層、本市において確かな教育理念の下に、生涯学習全般にわたる諸施策が展開されることが期待される。
- 平成 26 年 4 月に静浦小中一貫学校が開校し、順調に教育活動が展開されていること、中高一貫の沼津市立沼津高等学校、同中等部の施設設備・教職員組織（校長の中高兼務化等）の整備が適切に行われてきたこと、また、幼稚園、保育所（園）・認定子ども園の連携を図り、適切な就学前教育が行われるよう施策を講じてきたこと等に見られるように、地域の状況を的確に踏まえ、今日的課題に柔軟且つ積極的に取り組んできていることは高く評価できる。
- 市長と教育委員との意見交換を含め、教育施策について教育委員会部局と市長部局との協議がスムーズに行われ、常に緊密な連携が図られてきたことは適切であった。平成 27 年度以降は、総合教育会議での協議を通して、「明日の社会を担う夢ある人づくり」のために、一層の相互理解、連携が深まることが期待される。
- 市内の全小中学校において「がんばる学校応援事業」等により、各学校のグランドデザインの実現を目指し、地域の人材等も活用して、独自の特色ある学校づくりに積極的に取り組み、成果を挙げていることは、

すばらしいことである。学校相互の交流等によってそれぞれの成果を共有化し、がんばる学校応援事業の更なる充実が期待される。

- 「一人一人の子ども（その学習）を大切にする」という視点から、市独自の学校司書、いきいき学校生活応援支援員、通級指導学級への支援員等が配置され、きめ細かい指導が行われている。その成果を高めるためにも、今後一層の充実を図ることが求められる。
- 市民の生涯学習活動においては、生涯学習情報誌「さんさんだより」によって、諸々の学習情報が積極的に提供され、また、社会教育指導員や生涯学習地域推進員の活動によって、地域コミュニティを中心に「さんさんフェスティバル」等の行事への参加を通して学習活動への参加の機運が高められている。今後、生涯学習地域指導員等への研修等を一層充実することによって、市民の学習活動の活性化が期待される。
- 学校教育、社会教育を通して、沼津の豊かな自然と豊富で多彩な文化財を活かした教育活動・学習活動が展開され、郷土沼津に対する理解が深められてきている。さらに、それぞれの地域の自然・文化・産業等に密着し、それらをより積極的に活かした教育活動・学習活動への体系的な取り組みが期待される。
- 社会教育・生涯学習、特にスポーツ・文化に関しては、コミュニティ施策等との関連が深く、関連諸施設（運動場、体育館、図書館、博物館、少年自然の家等）の整備（新設・改修含む）、管理・運営等については、今後とも一層、市長部局との連携、更には近隣市町との連携を踏まえて、事業を展開することが求められる。

## 第4章 総合評価

沼津市は、「教育のまち 沼津」の実現に向けてこれからの沼津の教育の方向性を明確に示し、教育施策を総合的に進めていく指針となる「沼津市教育基本構想」を定めています。また、その基本構想の理念を具現化するため、「沼津市教育基本構想実施計画」を作成し、沼津の教育の向上を目指して広く市民の理解と協力を得ながら、諸施策を着実に進めています。なお、平成 26 年度末には、社会情勢の変化や教育を取り巻く環境の変化に対応するため、これまでの「沼津市教育基本構想」に基づいた「沼津市教育基本構想（改訂版）」を策定しました。

平成 26 年度は、教育委員会の活動として、市長と教育委員の意見交換、教育基本構想改訂版作成におけるパブリックコメントを行うなど、これまで以上の広報・広聴活動を重点的に実施しました。また、教育委員会が管理・執行する事務として、地域からの要望も踏まえ、隣接校選択制の条件を見直し「沼津市立小中学校の通学区域を定める規則」を改訂しました。

今後は、総合教育会議における市長と教育委員との活発な意見交換、学校関係者との連携等にこれまで以上に積極的に取り組み、沼津市ならではの教育行政の推進を目指します。

学校教育においては、「言語科」「がんばる学校応援事業」「中高一貫教育」等の継続した取り組みに加え、26年4月に開校した静浦小中一貫学校における施設一体型の特長を生かした異学年交流の促進、学力保証プログラムに基づいた研究指定校における充実した研修会の実施等、様々な成果が見られます。

今後は、家庭教育への支援、幼保小連携に向けた取り組みの強化、子どもたち一人一人にきめ細かい対応をするための支援員等の体制の充実、少子化対策等も視野に入れた施策の推進に努めていきます。

社会教育においては、新市民体育館の建設を含めたスポーツ環境の整備、史跡や文化施設の学校教育への活用及び観光資源としての活用を考慮した取り組みを進めていきます。

今後も、「明日の社会を担う『夢ある人』づくり」に向けた沼津市ならではの教育を、一層推進していきたいと考えております。